

# 中国語の“了”の用法探求

The Usage exploration of the Chinese word “了”

馮 富榮 (Furong Feng)

## 問題と目的

成人が第二言語を学習する時、母語から影響を受けることが多くの研究者によって指摘されている。馮 (1995) が中国人を対象にして日本語の学習過程における母語の影響を調べた結果、受動文、使役文、授受文の構文学習に母語である中国語から影響を受けることが分かった。稲葉 (1994) が、日本とアメリカという二つの環境での英語話者の日本語学習者を対象にして、日本語条件文の学習を調べた。その結果、日本語と英語との条件文の成立領域に差異のない項目は学習が容易であるが、差異のある項目は学習が困難であることが分かった。すなわち、英語話者の日本語学習者は、日・英条件文の領域の重なる部分では英語による正の転移を、重ならない部分では負の転移を起こすという。

以上の研究結果から、成人した人が第二言語を学習する時、自分の母語から影響を受けることが示唆された。これらの研究結果に基づいて推測すると、成人した日本人が中国語を学習する時も、母語である日本語から影響を受けると予想できる。実際、このことは、日本で中国語を教えている講師の間で、一つの常識としてよく知られている。例えば「去年、彼は学生だった」という日本語を中国語に訳しなさいという問題が出されたとする。恐らく日本人の学生の多くは、「去年他是学生了」と訳すのであろう。彼らは、中国語の“了”は、イコール日本語の過去助動詞である「た」と思い込み、「日本語の「た」のところに中国語の“了”を入れるべき」と考えがちである。しかし実際には、日本語の「だった」という意味も「だ」という意味も、中国語ではすべて同じ“是”で表し、この場合に過去であっても“了”は使わないのである。故に上の日本語を中国語に訳すと、“去年他是学生”となるべきである。

ある講習会で、「なぜここで買わないの」という日本語を中国語でどう言うかと尋ねたことがある。驚いたことに、約10年間中国語を勉強している人からも、“为什么在这儿不买”という回答が得られた。“不”をここに入れていいですかと質問したら、「買わないのだから、“买”の前には入れられないじゃないか」という回答があった。日本人は、日常日本語を使っている時、動詞の語尾変化によって否定を表現しているので、動詞のところで否定表現を入れるという感覚を持ちかねない。それが故に、中国語でも、否定を表す“不”も動詞のところに入れ、それによって否定文を構成すると考えているようである。実際中国語としては、“为什么在这儿不买”よりは、

“为什么不在这儿买”と表現したほうが自然であるので、“不”を動詞のところに代入するのではなく、“在这儿”のところに代入すべきである。それは、「買う」ことを否定するのではなく、「ここで買う」ことを全体的に否定するからであろう。このように、成人した日本人が中国語を学習する時、日本語の構文習慣に従って、中国語の文を構成する傾向があると思われる。

中国語の初級者はともかく、上級者からも「中国語の“了”の意味はよく分からない。使い方が難しいだけでなく、文のどこに位置すればよいかはさっぱり分からない」という声がよく聞こえる。確かに、中国語の“了”は、日本人の中国語学習者にとっては、学習の困難な部分であり、中国語をマスターするための難関の一つと言える。それは主として以下の原因によるものと考えられる。

- 1) 中国語の“了”は、助詞として使う時もある、述語として使う時もある。また可能の意味に使うこともでき、結果補語として使われることも可能である。いわば、“了”の用法はきわめて複雑である。
- 2) 中国語の“了”は、文末に入れる時もあり、動詞のすぐ後に入れる時もある。また動詞のすぐ後と文末の両方に入れる時もしばしば見られる。このように“了”の文中に置く位置は多種多様であるのと対照的に、“了”の入れるべき位置についての明確な説明はあまり見当たらない。実際「中国語の“了”を文のどこに入れるべきですか」と一般の中国人に質問しても恐らく明確な回答が得られないと思われる。故に、“了”の入る文を作成する時、文のどこに入れればよいか日本人にとってきわめて困難な問題である。
- 3) 日本人は、最初に「過去のことであれば“了”を入れる」と教えられた時、大抵「なるほど、この“了”はイコール日本語の過去助動詞の「た」と推定するのであろう。そしてこの推定を初段階の中国語の学習に応用してみても、大体通用する。例えば、「今日行く」なら“今天我去”であり、「昨日行った」ならば“昨天我去了”である。そこで、この推定のルールが定着化してしまい、それがかえって後の中国語の“了”のその他の意味の的確な学習を妨げてしまうと考えられる。

上述したことが、日本人の中国語の上級学習者でも、“了”が的確に使えにくい理由として挙げられよう。従って、日本人に中国語の“了”を教える時、「この“了”は決して日本語の過去形を表す助動詞の「た」ではない」と、「中国語では、過去であっても“了”を使わないケースが非常に多い」と、また「将来の出来事にも“了”を使わなければならない場合がある」となどを最初に断る必要がある。すなわち、彼らの学習に使う推定作業を意図的に妨害し、「“了”は決してイコール「た」ではないよ」と警報を鳴らしておいたほうが後の“了”の学習に役立つのではないかと考えている。そして学習が上の段階に進むにつれて、“了”の多様な用法について説明し、しかも“了”の構文位置に関する構文規則を指摘する必要もある。しかし、現在のところ、“了”の用法及び“了”の構文位置の両方について検討したもの、特に日本人の中国語の学習者が中国語の“了”を学習する際、抱える問題点を配慮した研究は、まだ非常に少ないと言える。

そこで、本論では、主として“了”の用法について説明すると同時に、“了”のそれぞれの用法が

日本語とどう異なっているかのところに焦点を絞ることにする。要するに、本論を、日本人の中国語の学習に役立つものとして位置づけ、それを中心にして展開していく考えである。故に、日本人が中国語の“了”を学習する時、母語の影響によってどういった問題に直面しうるか、どういった点に留意したほうがよいかというところに視点を置いて検討を進めていく。いわば日本人の中国語の教育実践に直接的に役立つことを本論の最大の目的とする。そのため、難しい専門用語をできるだけ避け、可能な限り具体例を挙げて説明するように工夫がなされている。本来ならば、“了”の構文位置をも含めて検討したほうがよいと思われるが、紙面の関係でそれについての検討を今後の研究課題とする。

### “了”の用法について

日本人が中国語の“了”を学習する時、最初に覚えたことは、恐らく、過去のことであれば“了”を使うということであろう。しかもこの誤解が、中国語の学習者の間で相当浸透していることが学習者の作文から分かる。しかし上述したように、中国語では、過去であっても“了”を使用しないケースが非常に多く、また“了”を使ったからといって、必ずしも過去を表すものであるとは限らない。上述したように、中国語の“了”の用法も意味も多種多様で、極めて複雑である。以下、中国語の“了”のそれぞれの用法について具体例を挙げて説明していく。

#### 1) 過去・完了を表す場合

- ① 昨天、小王来了(昨日、王さんが来た)。
- ② 去年、我去中国了(去年、私は中国に行った)。
- ③ 上星期、我看了一部中国电影(先週、私は中国の映画を一つ見た)。
- ④ 小李今天上午打电话来了(今日の午前、李さんから電話があった)。

過去の意味に用いる“了”は、主として動詞(自動詞と他動詞)に使われる。例①と例②は自動詞の例であり、例③と例④は他動詞の例である。ここで、心に留めておいたほうがよいのは、述語が動詞であるにも関わらず、“了”を使わない場合もあることである。それは主として、

- a) 過去の一定期間にわたって続くという継続性を持つ動詞が述語となり、その述語の前になおかつ期間を表す“时间状语”(動詞の前に入れる連用修飾語のこと)がある場合には、“了”は使わない。例えば“从1980年到1986年，他一直在天津大学工作”(1980年から1986年まで、彼はずっと天津大学で仕事をしていた)という文は、過去のことであるが、“从1980年到1986年”という期間を表す“时间状语”があるため、“了”は使わない。しかし、この意味と似ている中国語でも、期間を表すものは、動詞の前にある“状语”ではなく、動詞の後に入れる“数量补语”であるならば、“了”を使わなければならない。故に、上の表現を“补语”の表現に直すと、“他在天津大学工作了6年”(彼は天津大学で6年間働いていた)のように、“了”を使うことになる。

- b) たびたび行う動作の場合には“了”は使わない。例えば“以前在大学上学的时候、常常去图书馆看书”（以前、大学で勉強していたとき、いつも図書館へ行って本を読んでいた）のように、「いつも」を表す“常常”があるので、過去のことであるが、“了”は使わない。
- c) “以前・从前”のような過去を意味する表現がある場合には、“了”は使わない。例えば、“以前在图书馆工作”（私は、以前図書館で仕事をしていた）などがその例である。ところで、なぜ“以前・从前”のような表現があると、“了”は使わないのであろう。それは、恐らく“以前・从前”という表現は、ある期間内においてある動作がずっと続いていたか、もしくは度々行われていたかのどちらかを意味しているの、そのどちらの場合にも“了”は使わないからであろう。しかし、“以前・从前”と違って、ある期間ではなく、「二時頃」や「昨日」のような場合には、“了”を使うことになる。例えば、“昨天我工作了”（昨日、私は仕事をした）の例では、動詞が同じ“工作”であっても“了”を使用しなければならない。
- d) 中国語の“过”には、二つの意味があり、一つは完了を表し、今一つは過去の経験を表すものである。前者は“吃过饭了”（もうご飯を食べた）のような例があり、後者は“我去过三次北京”（私は三回北京に行ったことがある）のような例がある。前者には“了”を使うが、後者には基本的に“了”を使用しない。
- e) 動詞が限定語となった場合は、この限定語が過去であっても“了”は使わない。例えば、“昨天、你剩的饭我都吃了”（昨日、君が残したご飯を全部食べた）のように、“剩了”（残した）は、“飯”（ご飯）の限定語となっているので、“了”に代わって“的”を入れて“飯”を限定するのである。もし“飯”の前に“的”を入れないで、“你剩了饭”となると、「君がご飯を残した」という意味になってしまう。
- f) “告诉・说”を用いて過去の言葉を引用する時、“想・愿意・认为・觉得・知道・主张・赞成・希望”などで内的活動を表現する時は、過去であっても“了”は普通使わない。例えば、“他说知道”（彼は知っていると言った）、“我开始就赞成他的意见”（最初から彼の意見に賛成した）などのように過去の文であるが、“了”は使用しない。しかし同じ“告诉・说”であっても、伝達の内容よりも“告诉と说”という動作自体をやったか否かという意味に重点が置かれているのであれば、“了”を使用する。例えば“我说明天来了”（明日来ると言った）の例では、内容の「明日来る」よりも「ちゃんと言ったよ」のところに文の重点が置かれているので、“了”が使用される。このような場合は、“告诉・说”の目的語が無い、または人称代名詞となることが多い。例えば、“我告诉了”（伝えた）、“我告诉他了”（彼に伝えた）、“我说了”（もう言った）、さらに“我说他了”（彼を叱った）などの例がある。
- g) “劝・催・托”などを使う表現、いわば中国語の“兼语句”には、過去であっても“了”は使わない場合が多い。例えば、「休むように彼に勧めた」の中国語は“我劝他休息”であり、「本を一冊買ってくれるように彼に頼んだ」の中国語は“托他给我买一本书”である。両方とも過去のことであるが、両方とも“了”は使わなくてよいものである。
- h) 文を区切らない時には、過去のことであるにも関わらず、“了”は一般的に使用しない。例え

ば「昨日、私は働いたのに君は休んだ。本当にうらやましい」の中国語は“昨天、我干活你休息、真羡慕你”であるので、“了”が使用されない。しかしこの文を「昨日、私は働いた。しかし君は休んだ」のように区切ると、“昨天、我干活了。可是你休息了”のように、“了”が入ることになる。またほかの例を挙げて説明すると、「私は先日図書館に行って本を一冊借りてきた。／昨日、読み終えた。／今日、図書館へ返しに行ったが、休みだったので、返せずにまた本を持って帰ってきた。」の文は、三つの部分から構成され、それぞれ「借りてきた」、「読み終えた」と「帰ってきた」で区切られている。この三つの区切りのところには、それぞれ“了”を使わなければならないが、区切らないところには、“了”を使用する必要はない。故に、この文から訳された中国語は、“前几天、我去图书馆借来了一本书。／昨天看完了。／今天、去图书馆还书、可是因为休息、没能还、又把书带回来了”となる。ここの“去”と“休息”に当たる日本語は、みな過去形になっているが、この二つの動詞のところそれぞれ文を区切っていないので、どちらにも“了”を使用していない。

## 2) 変化を表す場合

全体的に言うと、中国語の“了”は、過去と比べ、むしろ変化の意味に使われることが多い。それは主として以下のような場合である。

### a) 述語が形容詞である場合

- ① 头发全都白了(髪の毛が真っ白になってしまった)。
- ② 我以前比较瘦、现在胖了(以前は、比較的瘦せていたが、今は太った)。
- ③ 我们的生活越来越好了(我々の生活は、ますます好くなってきている)。

上の例から分かるように、形容詞述語文に用いた“了”は、完了ではなく変化を表し、過去と比べむしろ現在の状況を物語っている。例①は、「白くない状態から白い状態への変化」を表し、例②は「瘦せていた状態から太った状態へ」と、さらに例③は「我々の生活がよかった」ではなく、「よくなかった状態からよい状態へ」と変化してきていることを意味している。ともかく、形容詞が述語となる文の過去形には、普通“了”を使用しないことを一つの構文規則として記憶する必要がある。例えば、例②の「以前比較的瘦せていた」の中国語は、“以前比较瘦”であって、“瘦”の後に“了”を入れて“以前比较瘦了”となると不自然な文になる。

### b) 述語が“有”である場合

- ① 我有中文辞典了(私は中国語の辞書を持つようになった)。
- ② 我有自己的屋子了(私は、自分の部屋を持つようになった)。
- ③ 他有妹妹了(彼に妹ができた)。

以上の例から明らかなように、“有”を述語とする文に用いる“了”も、a)と同じ意味で、過去の状況から現在の状況への変化を表している。上の例のいずれも、「持っていない状態から持つ状態へ」、或いは「いない状態からいる状態へ」と変化してきたことを意味している。この場合もa)の場合と同じで、過去であっても“了”は使用しない。例えば、「以前、自分の部屋を持っていた

が、今は無くなってしまった」を中国語に訳すと、「我以前有自己的屋子、现在没有了」となる。過去を表す前半には“了”はないのに対し、現在を表す後半には逆に“了”が使用されている。

c) 述語が“是”である場合

- ① 我以前是学生、现在是老师了（私は、以前学生であったが、今は先生である）。
- ② 她现在是一个有孩子的母亲了（彼女は、今子どもを持つ母親となった）。
- ③ 他是教授了（彼は、教授になった）。

上の例①は「学生から先生へ」、例②は「娘から母親へ、または子を持たない奥さんから子を持つ母親へ」、また例③は「教授でない状態から教授へ」と、それぞれ変化してきていることを意味している。いずれの“了”も、現在の状況を説明している。特に、例①の前半の過去にあたる「であった」には“是”が用いられ、後半の現在を意味する「である」には逆に“是～了”が用いられたことは、上記のa)、b)と同様である。

以上のa)、b)、c)について、共通して強調したいのは、いずれの場合にも、過去のことには“了”を使用しないが、現在のことには逆に“了”を使うことである。しかし日本人は、このような文を作成する時、日本語の構文習慣に従って過去文には“了”をよく用い、逆に現在文には“了”を使わない傾向を持つので、特に注意する必要がある。

d) “不”による否定文の場合

- ① 不吃了（もう食べない）。
- ② 不去了（行くのをやめた）。
- ③ 不结婚了（結婚をやめた）。

上の例①は「今までに食べていた状態から、これから食べない状態へ」と変化することを意味し、例②は「行く予定だったが、何らかの事情で前の予定を変更して行かないことにした」という意味を表し、また例③は「結婚をするつもりだったが、事情があってそれを断念した、またはしたくなくなった」のどちらかを意味する文である。上の例は、いずれも「不+動詞+了」という形式を取っているが、これと同様な使い方として「不+形容詞+了」という表現形式もある。例えば、お母さんからお菓子をすでに5個貰った子どもが「もう少し頂戴」と言ったとする。その時、お母さんはこれ以上食べていけないと判断すれば、恐らく「もういいの」とか、また「もう十分」などと答えるのであろう。その意味に当たる中国語は、“不多了”である。この“不多了”は、「一個、二個と与えた段階では少なかったが、数個を与えると、もう少くない状態へと変わった」ことを意味している。要するに、否定文の場合には、現在の状態に変わったという意味を表すのであれば、“有”以外は、すべて“不……了”という形を取る。もしこの場合の“了”を取ってしまい、“不”だけで表現すると、単なる形容詞の否定となり、「少くない」という意味になってしまう。上の例①～例③の動詞の文も同様で、それぞれの“了”を取ってしまうと、ただ「食べない」、「行かない」と「結婚しない」の意味に変わってしまい、変化の意味がなくなるのである。

形容詞に関しては、もう一つ注意しなければならないのは、“少了”は、形容詞としての用法以外に、動詞としての使い方もあることである。動詞として使われる時、「欠けている」などの意味

を表している。例えば、“这个桌子少了一个角儿”は、「この机は、角が一つ欠けている」という意味である。“少”の前に“很”、“比较”などの副詞のない場合は、形容詞と比べ、動詞として使われることが多い。例えば“我的钱少了”は、「私のお金は(使って)少なくなった」のではなく、「私はお金をなくした」か、または「私はお金を盗まれた」かのどちらかであり、いわば「あるべき量より少ない」ということを意味している。もし「私のお金は(使って)少なくなった」ことを表そうとすれば、“我的钱不多了”と表現するか、或いは“我的钱越来越少了”と表現する。

e) 数量詞、時間・季節を表す用語が述語となる場合

- ① 他今年7岁了(彼は今年もう7歳である)。
- ② 现在两点了(今はもう2時である)。
- ③ 春天了(もう春である)。

上の訳文から分かるように、いずれの“了”も過去ではなく、変化してきている現在の状況を説明している。例①と例②は、“了”を取っても文としては成り立つが、意味に変化が見られる。“了”がないと、ただ現在のことを言っているだけで、「6歳から7歳へ」の、また「1時から2時へ」の変化が読みとれない。また例③は、“了”を取ると、ただ「春」という名詞になってしまい、文としては成り立たなくなる。この場合の否定は、“没到”か“还不到”かで表現する。ただ数量詞に関しては、“没有”で否定することも可能である。例えば、例①の否定は、“他今年没有7岁”(彼は今年7歳になっていない)と表現することができる。その代わりに、肯定の場合に“有”を数量詞の前に入れることも可能である。例えば、例①を“他今年有7岁了”と表現することもできる。

f) 可能・許可を表す表現がある場合

- ① 这个孩子会走了(この子は歩けるようになった)。
- ② 我能说一点中文了(私は、すこし中国語が話せるようになった)。
- ③ 可以进来了(もう入ってもよろしい)。

上の例①は、「歩けない状態から歩ける状態へ」と、例②は「中国語は話せない状態から話せる状態へ」と、また例③は「入ってはいけない状態から入ってもいい状態へ」と変化したことを意味している。この場合の否定は、“还不”を用い、また“了”を取る必要がある。例えば、例①の否定は、“这个孩子还不会走”(この子はまだ歩けない)である。

g) 変化の意味が内包されている動詞を述語とする場合

- ① 我知道小李了(李さんと知り合いになった)。
- ② 我懂了(私は、分かった)。
- ③ 我感觉出微妙的震动来了(微妙な振動を感じ取った)。

例①は「李さんのことを知らなかった状態から李さんと知り合いになった状態へ」と、例②は「分からなかった状態から分かった状態へ」と、また例③は「微妙な振動が感じ取れなかった状態から感じ取れた状態へ」と変化してきていることをそれぞれ表している。この場合の否定は、例①と例②は“不”か“还不”でよいが、例③は“没”か“还没”を使用しなければならない。なぜなら

ば、例③は述語の後に結果補語である“出～来”があり、中国語では結果補語のある時は、“没”で否定するからである。

h) 願望・心情など内的活動を表す表現(想、觉得、主张、愿意、赞成、希望)の場合

- ① 我的病好了、想吃东西了。(私の病気がよくなって、ものを食べなくなった)
- ② 这个孩子终于喜欢学习了(この子は、ようやく勉強が好きになった)。
- ③ 他愿意去旅行了(彼は、旅行に行きたくなった)。

例①は「食べなくなかった状態から食べなくなった状態へと変化した」こと、例②は「この子は最初は勉強が好きでなかったが、ようやく勉強が好きになった」こと、また例③は「旅行が好きでなかったが、何かの原因で旅行に行きたがるようになった」ことを意味している。この場合の否定は、“还不”で表現する。例えば、“想吃了吗?”(食べなくなった)と聞かれた時、普通、“还不想吃”と否定する。

3) ある動詞によってもたらされた状態が続く場合

- ① 他现在睡了(彼は今寝ている)。
- ② 下雨了(雨が降っている)。
- ③ 外面刮风了(外は、風が吹いている)。

上のいずれも、“了”で継続状態を表している例である。勿論、継続状態を表す表現としてもっともよく使われているものは、「動詞+着」・「在+動詞」・「正在+動詞」・「文末+呢」の4つである。このような継続表現で上の例を書き直すと次の通りである。

- ① 他现在正睡着呢(彼はいま寝ている)。
- ② 正下着雨呢(雨が降っている)。
- ③ 外面正在刮着风呢(外は風が吹いている)。

訳文から分かるように、例①～例③と同じように、例①～例③も、現在の継続状態を表す文である。しかし、例①～例③は継続状態に関する一般的な記述であるのに対し、例①～例③は今現在の状態を特別に強調する表現である。この二つの表現の違いを次の例でより具体的に説明しよう。寝ている息子を誘いに来た息子の同級生に対して、母親が恐らく“对不起、他睡了、明天再来吧”(申し訳ないが、今寝ているので、明日また来てくれませんか)と断るのであろう。しかし、もしその同級生がむりやりに息子呼び出そうとするならば、その母親は今度“他正睡着呢、明天来好不好”(彼は今寝ているのよ。明日来てはだめ)と表現を変えるのであろう。中国語の習慣としては、3)の場合に、例①～例③よりも例①～例③のほうが多く使われている。例えば、「山の向こうは雨が降っているので、今日行くのをやめなさい」の場合は、“山那边在下着雨、今天别去了”よりは、“山那边下雨了、今天别去了”のほうが一般的に使われると思う。また日本語の「夜が明けている」から訳された中国語は“天亮了”であって、“天在亮着”ではない。

4) 述語として使う場合

① 那件事总算了,了<sub>2</sub>(あの事はようやく片づけた)。

② 她的儿子终于结婚了,她总算了,了<sub>2</sub>一件事。

(彼女の息子がやっと結婚した。彼女の心配事がやっと解決された)

③ 这么大的事,怎么能不了,了<sub>1</sub>之呢?

(こんな大事なことをどうしていい加減に片づけられるのであろうか)

上の例①も、例②も前の“了”は動詞で、後の“了”は完了を表すものである。二つの“了”を区別するために、前者は“了<sub>1</sub>”で、後者は“了<sub>2</sub>”で表記する。例①・例②と違って、例③は、両方の“了”とも動詞として使われるものである。上の訳文から分かるように、動詞として使った“了<sub>1</sub>”は、「片づける、処理する」という意味になる。完了を表す“了<sub>2</sub>”は“le”と読むのに対し、動詞としての“了<sub>1</sub>”は“liǎo”と発音する。ここで注意すべきことは、例①と例②の完了を表す“了<sub>2</sub>”は、過去ではなく、未来のことに使えることである。例えば、“能了,了<sub>2</sub>那件事”(あの事を処理することができる)は、未来のことに“了<sub>2</sub>”の使われた例である。この場合の“了<sub>2</sub>”は、結果補語として使われた例であるが、これについての議論は後に譲る。

#### 5) 命令を表す場合

① 站好了(きちんと立ちなさい)!

② 别剩,都吃了(残さないで、全部食べなさい)!

③ 别说了(もう話をやめて)!

④ 不要笑了(もう、笑うな)!

上記した例のいずれの“了”も命令を表すものである。例①は、ごちゃごちゃ立っている人に対して発する言葉であり、例②は、食べてはいたが、もう食べたくなくなり、残そうとしている人に発する言葉である。また例③と例④は、話している人、また笑っている人を命令する時に使われるものである。この4つの例のいずれも今現在、当該動作を行っている最中の人に対する表現であることに注意する必要がある。なぜならば、これからのことを命令したり、これからの動作を禁止したりする場合に、“了”は使用できないからである。例えば、話してほしくないことを友達が話そうとする時、日本語の場合は「言わないで」と引き止めるが、中国語では“别说”と言う。この時、“别说了”とは言わない。また例を挙げると、「内のクラスは、よく笑う人が多いが、今日お客さんが来るので、授業の時絶対に笑わないでね」という日本語は、中国語に直されると、“我们班很多人爱笑,今天有客人来,上课时大家千万别笑”となる。この時にも“了”を使ってはいけない。

さて、“了”は、どういった場合に命令に用いられやすいのであろう。一般的に言うと、命令の意を表す“了”は、結果補語として使われる場合が多く、例②がその例である。このような表現は、往々にして「把+目的語+動詞+了」という形を取る。例えば、“把帽子摘了(帽子をはずしなさい)”、“把袜子脱了(靴下を脱ぎなさい)”、“把黑板擦了(黑板を拭きなさい)”などのように使われる。これに関しては、結果補語としての“了”のところでもより詳しく説明する。

6) 注意を促す時に使われる場合

- ① 照了、照了(もう写真を取るよ)!
- ② 到点了、吃饭了(時間だ。もうご飯だよ)!
- ③ 我不管你了(もうあなたの世話をしないよ)。

例①は、シャッターを押す時に言うことであり、相手に「気を付けなさい、今から取るよ」という意味である。例②は、夢中で勉強している人、或いは一生懸命何かをやっている人に、「勉強、または仕事をやめて、もうご飯だよ」と催促する時に使う表現である。また例③は、親のことをなかなか聞いてもらえない子どもに、「もう、貴方のことは知らないよ、放っておくよ」と警告する時の表現である。上の例のように、相手に注意を促すのに用いられる“了”はそれほど多くないので、個々に覚えておく必要がある。

7) 可能を表す例

- ① 吃得了(食べれる)。
- ② 我腿疼，跑不了(足が痛いので、走れない)。
- ③ 他很节省，乱花不了钱(彼は、大変な節約家なので、無駄遣いはできない)。

可能の意味に用いる“了”は、“liǎo”と読む。肯定文は「動詞+得了」、否定文は「動詞+不了」の形を取る。このような使い方は、動詞のほかに、形容詞にも見られる。例えば、

- ④ 错不了(間違えることはない)。
- ⑤ 坏不了(悪くならない)。
- ⑥ 你的病好得了(貴方の病気はよくなる)

上の訳文のいずれからも、可能の意味が直接的には読みとれないかも知れないが、いずれの文にも可能の意味が含まれている。例えば、例④は「違えることは不可能だ」という意味であり、例⑤は「悪くなることはあり得ない」という意味である。また例⑥は「貴方の病気は治ることができる」ということを意味している。形容詞に用いる可能の“了”は、多くの場合、“不了”の形を取っており、中でも「太+形容詞+不了」の形が特に多いようである。例えば、“太亮不了”(明るすぎることはない)；“太矮不了”(低すぎることはない)；また“也许有点热，但是太热不了”(ちょっと暑いかも知れないが、しかし暑すぎるということはない)のように用いられる。

8) 仮定を表す例

- ① 吃了饭就去(ご飯を食べたら、すぐ行く)。
- ② 他来了我们再包饺子、如果不来就不包了(彼が来れば餃子を作るが、来なければ、餃子を止めよう)。
- ③ 他的病好了，我们就去旅行吧(彼の病気がよくなったら、旅行に行こう)。

上のいずれの“了”も仮定を表し、日本語の「たら」と訳される。仮定に使う“了”は、多くの場

合、“就”か“再”と呼応して使われる。例①と例③は“就”と、例②は“再”と、それぞれ呼応して使われるものである。

#### 9) 結果補語として使われる場合

- ① 脱了鞋再进屋(靴を脱いでから部屋に上がりなさい)。
- ② 小心别扔了有用的东西(使えるものを捨てないように気を付けなさい)。
- ③ 明天把房子拆了(明日、家を解体しなさい)。

上記の例に出ている三つの“了”とも、結果補語として使われるものである。結果補語として使う“了”は、多くの場合、「取ってしまう」意味に用いられる。例えば、例①の“脱了(脱いでしまう)”は使えるが、その反対語である“穿了(履いてしまう)”は使えない。これと同じように例②の“扔了(捨ててしまう)”は自然であるが、その逆である“拣了(拾ってしまう)”は自然ではない。また例③も同様で、“拆了(解体してしまう)”ならよいが、しかし“盖了(建ててしまう)”だと不自然になる。勿論、“盖房子了(家を建てた)”とも言うが、しかしここの“了”は、結果補語ではなく、過去・完了を表す“了”である。過去の“了”は基本的に命令文に使われないのに対し、結果補語の“了”は基本的に命令文に使われる。例えば、“脱了大衣!”だけでは命令文となるが、“穿了大衣”だけでは普通命令文にはならない。

結果補語としての“了”を持つ述語が限定語となる場合は、“了”をそのまま保留して、“了”の後に“的”を入れなければならない。しかしこれと対照的に、過去・完了を表す“了”を持つ述語が限定語となる場合は、“了”に取って代わって“的”を入れるのである。従って、「解体した家」なら“拆了的房子”と言うのに対し、「建てた家」なら“盖的房子”と言ひ、“盖了的房子”と言つてはならない。結果補語とする“了”を使う動詞として、“忘、关、吃、杀、扔、涂、脱、摘、拆、卸”(忘れる、閉める、食べる、殺す、捨てる、塗る、脱ぐ、外す、解体する、卸す)などが挙げられる。

#### 10) “了”を用いる慣用表現

“了”を使う慣用表現として、よく使われているものには、a)太～了、b)形容詞+极了、c)可+形容詞+了、d)形容詞+了点儿、e)要～了、f)快～了、g)快要～了、h)就要～了、i)已经～了、j)早就～了、k)早～了、l)该～了などがある。これらの慣用表現を分類すると、程度を表すものと時間を表すものの二つに分けることができる。以下、それぞれの用法について、具体例を挙げて説明していく。

##### A、程度を表すもの

###### a) 太～了

- ① 太热了(熱すぎる)。
- ② 太坏了(悪すぎる)。
- ③ 太远了(遠すぎる)。

上の例を見ると分かるように、いずれもマイナス表現である。勿論、“太好了(すばらしいとか、よかったなどの意味)”、“太棒了(すばらしい)”のようなプラス表現もあるが、しかし“太……了”という慣用表現は、プラス意味よりもマイナス意味のほうに多く使われる。

b) 形容詞+极了

- ① 他的中文好极了(彼の中国語は、すごくいい)。
- ② 香港的夏天热极了(香港の夏は、すごく暑い)。
- ③ 桂林的风景美极了(桂林の風景はすごく美しい)。

上の訳文から分かるように、“～极了”という慣用表現は、プラス意味にもマイナス意味にも使える。いずれも、極地に達していることを表し、程度が極めて高いことを意味している。これと類似する表現として、“形容詞+死人”が挙げられる。但し、“形容詞+极了”と比べ、“形容詞+死人”のほうがマイナス表現に多く用いられる。例えば“桂林的风景美死人”よりは、“香港的夏天热死人”のほうが自然に使われる。“形容詞+死人”の他に、“形容詞+死人了”の表現もあるが、前者は一般的な記述にも今現在体験していることにも使えるのに対し、後者は今現在体験していることにしか使えない。例えば、とても熱い部屋の中から出てきた時、“屋子里热死人”(部屋の中はすごく熱い)とも言い、また“屋子里热死人了”(部屋の中はすごく熱かった)とも言う。これは、今に体験したことだからである。しかし一般的な記述の場合はどうであろう。例えば「香港の夏はすごく暑い」という意味の中国語は、“香港的夏天热死人”なら自然であるが、“香港的夏天热死人了”だと不自然になる。なぜなら、これは今現在体験したことではないからである。また一般的な人を指していないならば、“形容詞+死人了”ということができ、また“形容詞+死人”の“人”を“我”や“你”のような人称代名詞に変えることもできる。例えば、“屋子里热死我了”や“累死你”(死ぬほど君を疲れさせる)のように使われる。これと対照的に、一般的な人を指す場合には、このような使い方はできない。例えば“香港的夏天热死我”とは言わない。“形容詞+死人”の否定は、“形容詞+不死人”である。

c) 可+形容詞+了

- ① 那个人可好了(あの人は、とてもいい人だ)。
- ② 那个工厂的厂长可坏了(あの工場の工場長は、とても悪い奴だ)。
- ③ 那儿的风景可美了(あそこの風景は、とても美しい)。

c)もb)と同じで、プラス表現にも、マイナス表現にも使え、どちらも程度の高いことを表している。ゆえに、c)とb)の二者間に大きな差はないと言える。例えば、「あそこの風景は、とても美しい」という日本語を“那儿的风景美极了”とも言い、“那儿的风景可美了”とも言う。しかし、この二つの言葉の間に微妙なニュアンスの差が全くないとは言えない。その微妙な差をあえて説明しようとすれば、b)は自我陶酔的な表現であるのに対し、c)はその美しさを訴えて、ぜひ一度行ってみたいと勧めているようなニュアンスを持つ表現だと思われる。また“可+形容詞+了”の“了”を“呢”に変えることも可能である。上記した例は、いずれも“了”を“呢”に変えることができる。

## d) 形容詞+了点儿

- ① 东西好、可是贵了点儿(品物はよいが、しかしちょっと高い)。
- ② 今天、玩儿得累了点儿(今日は遊んでちょっと疲れた)。
- ③ 他老实了点儿(彼は、ちょっとおとなしすぎる)。

上記した例から分かるように、“形容詞+了点儿”という慣用表現がマイナス意味にしか使われない。例えば、“老实(おとなしい)”は、もともとプラス意味の言葉であるが、しかしその後“了点儿”をつけ加えると、マイナス表現になってしまう。この“形容詞+了点儿”の表現は、よく“就是”と呼応して使われる。例えば、例③に“就是”を入れ、“他就是老实了点儿”と言い換えることもできる。つまり「何もかもよいが、ただおとなしすぎる点がすこし残念だ」という意味である。

## B、時間を表すもの

時間を表すものをさらに分類してみると、二つに分けることができ、それは未来と過去である。“要～了・快～了・快要～了・就要～了と该～了”は、「もうすぐ～をする」か、「もうそろそろ～をしなければならない」の意味で、未来に使われるものである。一方、“已经～了・早就～了・早～了”は、「もうすでに～をした」か「もうとっくに～をした」の意味で、過去に用いられる表現である。

まず、未来に使う慣用表現について、具体例を挙げて説明する。

## a) 要～了

- ① 要放暑假了(もうすぐ夏休みだ)。
- ② 要开学了(もうすぐ授業が始まる)。
- ③ 汽车要开了(バスはもうすぐ出発だ)。

## b) 快～了、

- ① 快放暑假了(もうすぐ夏休みだ)。
- ② 快开学了(もうすぐ授業が始まる)。
- ③ 汽车快开了(バスはもうすぐ出発だ)。

## c) 快要～了、

- ① 快要放暑假了(もうすぐ夏休みだ)。
- ② 快要开学了(もうすぐ授業が始まる)。
- ③ 汽车快要开了(バスはもうすぐ出発だ)。

## d) 就要～了、

- ① 就要放暑假了(もうすぐ夏休みだ)。
- ② 就要开学了(もうすぐ授業が始まる)。
- ③ 汽车就要开了(バスはもうすぐ出発だ)。

訳文から分かるように、慣用表現a)～d)のいずれも「もうすぐ」と訳されており、意味上におい

て大した差はない。しかし全体的に言うと、a)・b)よりも、c)・d)のほうには緊迫感がある。この4者間の違いとしてもう一つ挙げられるのは、具体的な時間表現が使用された場合に、“快”の入っているb)とc)は使えないが、“快”の入っていないa)とd)が使えることである。例えば、「明日、もう夏休みだ」という意味ならば、“明天要放暑假了”と言ってもよく、“明天就要放暑假了”と言ってもよいのに対し、“明天快放暑假了”と“明天快要放暑假了”は不自然である。

上記した慣用表現のほかにも、もう一つ未来に使う慣用表現がある。それは、

e) 该～了

- ① 该下车了(そろそろバスを降りるのよ)。
- ② 12点了,该吃饭了(12時だ。もうご飯を食べる時間だ)。
- ③ 按理说今年该毕业了(道理から言えば今年で卒業すべきだ)。

上の訳文から分かるように、“该～了”は、「もうそろそろ～をするんだ」という意味、「もう～をする時間だ」という意味、また「もう、～をすべきだ」という意味に用いられる。この場合の否定表現は、“还不该”か“还不到～的时间”である。例えば上の例を否定文に直すと、下記の通りである。

- ① 还不该下车。  
还不到下车的时间。
- ② 还不该吃饭。  
还不到吃饭的时间。
- ③ 还不该毕业。  
还不到毕业的时间。

上記したa)・b)・c)・d)とe)は、すべて未来に使う慣用表現であるが、a)・b)・c)とd)の表現をe)と比較すると、前者は「ある事柄がもう間近に来ている」ことを客観的に叙述しているのに対し、後者は常識的にその事柄をもうそろそろやらなくては、または「その事柄をやるべき時期が間近に来ている」ということを表している。例えば、“他该结婚了,可还没对象”(彼はもうそろそろ結婚すべき年齢なのに、まだ結婚相手がいない)なら自然に言うが、しかし“他要结婚了,可还没对象”(彼はもうすぐ結婚するのに、まだ結婚相手がいない)も“他快结婚了,可还没对象”(彼はもうすぐ結婚するのに、まだ結婚相手がいない)も不自然である。

以上、未来に使う“了”の慣用表現について説明してきた。次に、過去の意味に使う慣用表現について説明する。

a) 已经～了、

- ① 他已经回去了(彼は、すでに帰った)。
- ② 我已经吃饭了(私は、すでにご飯を食べた)。
- ③ 小王的病已经好了(王さんの病気は、すでに治った)。

b) 早就～了、

- ① 他早就回去了(彼は、もうとっくに帰った)。

② 我早就吃饭了(私は、もうとっくにご飯を食べた)。

③ 小王的病早就好了(王さんの病気は、もうとっくに治った)。

c) 早～了、

① 他早回去了(彼は、もうとっくに帰った)。

② 我早吃饭了(私は、もうとっくにご飯を食べた)。

③ 小王的病早好了(王さんの病気は、もうとっくに治った)。

上記のa)・b)とc)は、みな過去のことに使われる慣用表現であるが、「已经～了」は、ある動作がすでに済んだことを表すのに対し、「早就～了」と「早～了」の二つは、動作がただ済んだだけでなく、その動作が早くからも済んだことを意味している。また「早～了」と比べ、「早就～了」のほうがその含意が強い。これらの慣用表現を使用する時、注意すべきは、具体的な時間名詞が入っている場合、“已经～了”は使えるが、その他の二つは使えないことである。例えば、“他昨天已经出院了(彼は昨日、もう退院した)”なら自然に言うが、“他昨天早就出院了”も、“他昨天早出院了”も不自然な表現である。

### 全体的要約

以上、“了”の意味・用法について、具体例を挙げて説明してきた。これらの用法をまとめると、下表を得ることができる。

“了”の用法表

	過去・完了	変化	継続状態	述語	命令	注意	可能	仮定	結果補語	慣用表現
了 <sup>le</sup>	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○
了 <sup>liǎo</sup>	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×

この表では、発音によって“了”を二つに分けた。そして“le”と読む“了”の用法を1)過去・完了、2)変化、3)継続状態、4)命令、5)注意、6)仮定、7)結果補語と8)“了”を用いる慣用表現の8種類に分類し、“liǎo”と読む“了”の用法を1)述語と2)可能の2種類に分類した。このような分類の仕方は、あくまでも日本人の中国語学習上の便宜を図るためのものであり、決して“了”の用法分類の定式化を図るものではない。実際、“了”に関する分類は、いろいろな仕方が可能である。例えば、“了”の文法機能を「変化を表す」ことの一つにまとめる(栗原、1997)ことも可能であり、また“了”の用法をより細かく分類することも可能である。例えば、“听了小王的话，她哭了”(王さんの話を聞いて、彼女は泣いた)の“了”と“昨天她哭了”(昨日、彼女は泣いた)の“了”は、両方とも過去のことを言っているが、前者は、始点を意味するのに対し、後者は完了・終点を表している。同じ過去の“了”にも、意味の違いが見られる。

ところで、本論は、日本人の中国語学習者が中国語の“了”を学習する時、こういった問題点に

直面しうるか、どういった混乱を持ちやすいかを想定し、その問題点の解決に少しでも役立つように狙って書かれたものである。ゆえに、中国語の“了”はどういった時に動作の始点を表すか、どういった時に終点を表すかのようなより細かい分類は、中国語の学習者、特に初級者にとっては混乱を招きかねないと考えているので、ここであえて避けることにした。また“了”の用法を「変化を表す」ことの一つにまとめるのも、“了”の多様な用法の理解に困難をもたらしまうと判断しているため、このような分類もここで取らないことにした。要するに、日本人の中国語の“了”の学習に役立つことを本論の最大の目的としているので、その学習の便宜を最優先に考えて、“了”の用法の分類を試みた。

本論の例文からも分かるように、中国語の“了”は、実に多種多様な意味を持っており、使い方もきわめて複雑である。しかし日本人は、中国語の“了”を学習する時、その過去・完了の用法を最初に習い、しかもそれを日本語の過去助動詞の「た」と連想しやすいので、“了”の過去・完了の用法を過大視しがちである。ゆえに、中国語を作文する時、過去文であれば、述語が何であろうと、彼らは、“了”を入れたがるのである。従って、日本人に中国語の“了”を教える時に、最初の段階で、この“了”は日本語の過去助動詞の「た」ではないことを断ることが非常に大切だと言える。そうすることによって、学習者の注意を喚起することができ、それがまた、以後の“了”のその他の用法の適切な学習へと繋がるのではないかと考えている。勿論、“了”の意味・用法のみでなく、“了”の構文位置も日本人の中国語学習上の一大難関であるが、それについての検討は、今後の研究課題としたい。

## 文 献

- 馮 富榮 1995 中国人の日本語構文文法学習における母語(中国語)の影響について 名古屋大学大学院博士学位論文 53-140.
- 稲葉みどり 1992 日本語条件文の意味領域と中間言語構造——英語話者の第2言語習得過程を中心に—— 日本語教育 75.87-99.
- 栗原 千里 1997 “了”の文法機能について 日本中国語学会第47回全国大会発表
- 王 宏 1983 日語“た”和漢語“了”的対応關係 日語学習与研究 1. 12-17.
- 呉 之桐 1988 現代日語助動詞“た”的表義範圍 日語学習与研究 2. 83-86.
- 張 黎 1997 漢語句子的“態”——以“了”、“着”為例 日本中国語学会第47回全国大会発表